生産原論専門委員会報告　令和 4 年 11 月 4 日（金）14:00-16:30　Web 開催

生産哲学・倫理部会研究会

主テーマ：　「いまモノづくりに求められる倫理／哲学とは？」
～　軍事研究と学術研究の関わりについて考える　～

1．はじめに

生産原論ではモノづくりの始めは How to ではなく，生産哲学，生産倫理から考えることが重要であると訴えている．生活を守る，生活を豊かにする，宇宙地球環境・資源を守るという考えの下に，これまで生命権，生活権，環境権，平和維持権を確保するために，何をつくるべきか，つくらざるべきモノは何か，そして最後に如何にしてつくるかを議論してきた．

今年に入って，毎日のように軍事関連のニュースが続いている．最近では日本学術会議の軍事研究に対する態度が軟化しているようにも思われる．こんな時代だからこそ，研究者や技術者は，専門家として平和への義務を認識し、学術と軍事の関わりを深く考えるためのオープンな議論が必要だと考えた．そこで，生産哲学・倫理部会では「いまモノづくりに求められる倫理／哲学とは？～軍事研究と学術研究の関わりについて考える～」と題して，研究会を開催することにした．

2．研究会の概要

11 月 4 日(金) 14 時 00 分から，オンライン形式で講演会を開催した．参加者は計 12 名であった．まず，日本天文学会元会長で京都大学名誉教授，同志社大学特別客員教授の柴田一成先生に「軍事研究と学術研究のあり方―日本天文学会の取り組みについて」ご講演頂いた．次に，砥粒加工学会誌（Vol.66,No.5)「若手技術者へ贈る言葉」に「軍事研究に加担してはならない」と題するご寄稿を頂いた砥粒加工学会名誉会員，富山県立大学名誉教授植松哲太郎先生に「軍事研究を考える」と題してご講演を頂いた．講演後は,「反対か賛成か」という議論ではなく，この問題に対して，どのように取り組むべきなのか，他学会の取り組みを学び，当委員会としての議論を深めることにした．

3．講演内容

講演 1「軍事研究と学術研究のあり方―日本天文学会の取り組み」

同志社大学特別客員教授　柴田　一成氏

本講演では, まず日本天文学会の取り組みとして,「天文学と安全保障に関わる問題について」と題する声明を発表するまでの詳細な経緯が紹介された．発端は防衛装備庁が設置した「安全保障技術研究推進制度」（ 2015 年）である。さらに日本学術会議がこれを受けて「軍事的安全保障研究に関する声明」(2017 年 3 月 24 日) を発表するに至り、日本天文学会でも事の重大性を痛感し、議論を始めた．日本学術会議は声明の中で，それぞれの学協会等がもつ学術分野の性格に応じたガイドラインの設定を求めている.そこで,日本天文学会では 2017 年 6 月から 2019 年 3 月にかけて準備を行った.具体的には代議員総会での学術会議会員による講演、学会誌で「安全保障と天文学」欄を設け,さまざまな立場の有識者から意見を募り,春と秋の年会では特別セッションを組み，幅広い年齢層の研究者に自由闊達な議論を求めた. 声明文の作成にあたっては,世代やジェンダーに考慮したワーキンググループを立ち上げ，あらためて全会員にアンケートを行った.これらをもとに作成された案文は, 代議員の 3 分の 2 以上の賛同を得ることを条件とし,2019 年 3 月 16 日にようやく発表されたことのことであった．アンケートでは世代ギャップが思いのほか,大きく世代間のコミュニケーションの重要性が指摘された.

講演 2「軍事研究を考える」

富山県立大学名誉教授　植松　哲太郎氏

本講演では，まず軍事研究とは何かについて説明され,「安全保障技術研究推進制度」の内容、近年までの応募状況，学術会議の声明（2017）,大学・学協会の反応などについて詳細な説明がなされた．軍事研究の問題点を洗い出し，デュアルユースでも研究費の出所で軍事か民生かが決まること, 防衛は戦争であり,許容される防衛専用技術など存在しないことなどが述べられた。最後に，若い技術者・研究者は軍事研究にもっと神経質になって欲しいとのメッセージが加えられた.

4．おわりに

ご講演を頂いた講師の先生には、大変難しい課題に対して示唆に富んだ素晴らしいメッセージを発信して頂きました．あらためて心より感謝申し上げます．講演後のディスカッションは活発になされ，時間が足りず議論し尽くせなかったことをお詫び申し上げます．次回は，生産と人間部会研究会を**令和４年 11 月 28 日(月)**に開催します．研究会の主題は,「生産と人間部会研究会・見学会／日立オリジンパークと㈱日立産業制御ソリューションズ」です．ご臨席賜りますようお願い申し上げます．

精密工学会　生産原論専門委員会
生産哲学・倫理部会主査　林　偉民(文責)